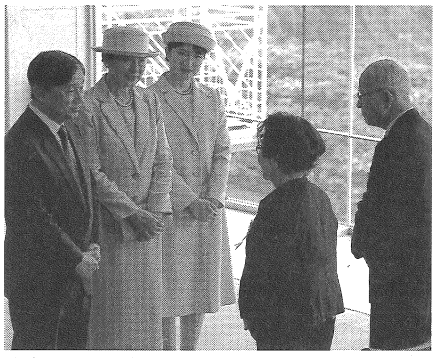
日本遺族通信
令和7年6月15日
第894号

一般財団法人日本遺族会
〒102-0074東京都千代田区九段南一丁目六番五号 九段会館テラス四階
電話 03－3261－5521
振替 00160-6-25389
編集発行人 盛川英治
毎月1回15日発行
定価 1部130円（税込）

日本遺族会は国の礎となられた英霊顕彰をはじめ、戦没者の遺族の福祉の増進、慰藉救済の道を開くと共に、道義の昂揚、品性の涵養に努め、世界の恒久平和の確立に寄与することを目的とする。

天皇皇后両陛下沖縄を訪問
愛子さまとともに戦没者を慰霊

天皇皇后両陛下と長女愛子さまは、戦後80年の節目にあたり、6月4日、住民を巻き込む太平洋戦争末期に地上戦が行われた沖縄を訪問された。天皇ご一家は、約18万5000柱の遺骨が納められた糸満市の国立沖縄戦没者墓苑で拝礼し、戦争体験者や戦没者遺族と懇談された。愛子さまの沖縄訪問は初めて。



戦争体験者、遺族と言葉を交わされる天皇皇后両陛下と長女愛子さま＝6月4日、糸満市摩文仁で

天皇皇后両陛下と愛子さまは、4日午後3時前に糸満市摩文仁の国立沖縄戦没者墓苑に到着し、納骨堂の前で一礼され、献花台に供花された。また、お出迎えした遺族に歩み寄りひとりひとりに声をかけられた。

続いて、沖縄戦の犠牲者24万人余の名前が刻まれた平和の礎を訪れ、これまで新たに名前が刻まれた人たちなどに関する説明に耳を傾けられた。

さらに、平和祈念資料館に移動され、沖縄戦の体験者などの証言集などを閲覧された後、沖縄戦の体験者や遺族、語り部として活動している若者と懇談された。沖縄県遺族会の照屋苗子顧問は、自らの体験を涙ながらに語り、二度と戦争はしてはならないと繰り返し話すと、皇后さまから「お話しいただいてありがとうございます」などとことばをかけられていた。

また、天皇ご一家との懇談で、同連合会の瀬長和枝女性部長は、沖縄の戦争の悲惨さを若者たちに継承する活動を話した時、「愛子さまは大きくうなずかれていた。ご一家が、継承の大切さを感じてらっしゃる中で、私たちも次世代に継承し、語り部や遺族会の活動を止めてはいけないと思いました」と話した。

宮内庁によると、両陛下の「次の世代にも戦争の歴史や平和への思いを引き継いでいきたい」という意向を踏まえ、愛子さまの初めての沖縄訪問への同行が決まったという。

日本遺族会新役員決定
評議員会、理事会で承認

本会は5月30日、第23回評議員会、第34回理事会を開催し、新たに役員を選任した。

評議員会では、4年間の任期満了に伴う評議員、監事の選任と、同じく2年間の任期満了に伴う理事の選任、令和6年度計算書類等について審議し、何れも承認された。

理事会では、会長、副会長、専務理事の選定について、本会に設置した役員選考委員会の江田肇委員長（埼玉県）が、4月14日に開催された役員選考委員会の選考結果を報告し、全会一致で決定した。また、常務理事の選定が諮られ、決定した。さらに名誉顧問、顧問、相談役が推薦され、会長が委嘱した。

※新役員の氏名は2面に掲載

新副会長に安齋満氏

5月30日の第34回理事会で、新役員が決定し、新たに安齋満氏が副会長に就任した。



安齋満氏の略歴
昭和13年3月31日 福島県生まれ 87歳
平成23年11月 福島県遺族会会長
令和3年6月 日本遺族会常務理事
令和7年5月 日本遺族会副会長に就任

支部長交代

長野県、岐阜県で役員改選が行われ、新会長が就任した。

▼長野県遺族会
相澤 洋男氏
（5月23日付）

▼岐阜県遺族会
浅野 裕司氏
（5月27日付）

夏の参議院選挙推薦候補
日本遺族政治連盟



○北海道・第2・4・5ブロック推薦
橋本聖子氏略歴
昭和39年10月5日北海道安平町早来生まれ
五輪銅メダリスト
平成7年参院選比例初当選（現5期目）
外務副大臣、東京オリ・パラ担当大臣



○第1ブロック（北海道除く）推薦
佐藤まさひさ氏略歴
昭和35年10月23日福島県生まれ
平成16年イラク先遣隊長
平成19年参院選比例初当選（現3期目）
外務副大臣



○第3ブロック推薦
有村治子氏略歴
昭和45年9月21日石川県生まれ
平成13年参院選比例初当選（現4期目）
初代女性活躍担当大臣

声なき声

桜の名所で知られる千鳥ヶ淵の緑道の向かい深い緑の中に千鳥ヶ淵戦没者墓苑がある。政府主催の遺骨収集派遣により送還されたご遺骨で、氏名不詳のご遺骨が納められている施設だが、具体的な建設が検討され始めたのは、日本が主権を回復した昭和27年▼終戦に伴い復員する戦友が持ち帰った多数のご遺骨が当時の厚生省に仮安置されていたが、これら戦没者の「墓」建設の機運が高まり、昭和28年12月11日に国の責任で管理することが閣議決定された▼建設の準備、墓苑の名称、場所の選定等が長期にわたって議論され、昭和34年3月にようやく竣工となった▼その墓苑で先日、「平和の語り部」事業の体験型実習が開かれ、参加者は墓苑の成り立ちを学び、ご遺骨が納められている六角堂の柱を清掃し、墓苑に眠る無名戦没者の冥福を祈った。そして、5月26日拝礼式が挙行され、今年も遺族に引き渡すことができないご遺骨368柱が納骨された▼墓苑の建設用地の問題は紆余曲折あったが、戦没者の鎮まる場所として靖国神社近く、緑豊かな皇居の水辺、千鳥ヶ淵が選ばれた。どこまでも戦没者の心情に沿う場所として閑院宮載仁親王、久邇宮邦彦王、賀陽宮恒憲王の旧皇族がお住まいになられた地が選ばれたことにも感謝したい。（M）

御祭神のご遺徳を子々孫々に継承するために
永代神楽祭のご案内



靖國神社では、ゆかり深い御祭神奉慰のため永代神楽祭（命日祭）を日々斎行しております。この祭典では、毎年ご命日またはご指定の日に本殿にて御祭神名を奏上、御神楽を奉奏し慰霊顕彰申し上げます。

一度お申し込みいただきますと、永代にわたり祭典を行います。

御祭神のご遺徳を子々孫々に継承するために、皆様のお申し込みをお待ち申し上げております。

［祭資料］金十万円から（御祭神一柱につき）

［神楽奉奏日］一年に一度（ご命日またはご希望の日をお申し込み時にご指定いただきます）

◆毎年、事前にご案内状をお送りしご参列の有無や人数を伺います。
◆家族・縁故の方々も一緒にご参列できます。（代理の方のご参列も可）
◆詳しくはパンフレットをご請求下さい。

靖國神社 永代神楽祭係
〒102-8246
東京都千代田区九段北3-1-1
電話：03-3261-8326（代表）
FAX：03-3261-8320（直通）

戦没者遺児による慰霊友好親善事業 洋上慰霊
「にっぽん丸」神戸港を出港



詳細は次号からの特集で

戦没者墓苑拝礼式

新たに368柱を納骨

秋篠宮皇嗣同妃両殿下御臨席

厚生労働省主催の千鳥ヶ淵戦没者墓苑拝礼式が、5月27日、秋篠宮皇嗣同妃両殿下の御臨席を仰ぎ、挙行された。式典では硫黄島、ビスマーク・ソロモン諸島、旧ソ連等で収容した遺骨のうち、遺族に引き渡すことのできない368柱が新たに納骨された。式典には、約600人が参列し戦没者の冥福を祈った。



福岡厚労大臣の先導で拝礼に向かわれる秋篠宮皇嗣同妃両殿下＝5月26日、千鳥ヶ淵戦没者墓苑で

式典は、午後零時28分、秋篠宮皇嗣同妃両殿下が福岡資麿厚生労働大臣の先導で御臨場になり、開式した。



遺族を代表して献花に進む水落会長

国歌斉唱の後、福岡大臣は式辞で「一柱でも多くのご遺骨が、一日も早くふるさとに戻られるよう全力を尽くしてまいります」と述べ、「本年は戦後80年。戦中・戦後の労苦を体験された方が少なくなる中で、多くの教訓を風化させることなく継承していかなければならない。戦争の惨禍を二度と繰り返さぬよう、時代を超えて語り継ぎ、世界の恒久平和と繁栄に貢献していく」と誓った。

式辞の後、福岡大臣の手により六角堂に遺骨が納められた。今回の式典で、遺族に引き渡すことができない遺骨368柱が納骨され、既に納骨されている遺骨と合わせると37万1008柱となった。

納骨後、秋篠宮皇嗣同妃両殿下のご拝礼に合わせ参列者一同も拝礼し、両殿下ご退場後、皇宮警察音楽隊による奏楽の中、石破茂内閣総理大臣が献花し、続いて水落敏栄本会会長、参列支部遺族会代表9人が献花した後、関係国駐日大使、衆議院議長、参議院議長、衆議院厚生労働委員長、参議院厚生労働委員長、外務大臣、環境大臣、防衛大臣、各政党代表、各関係団体代表、厚生労働大臣が献花した。

式典後は、全国の遺族代表、令和6年度遺骨収集参加者等、多くの参列者が拝礼をするために、献花台に向かって長い列をなしていた。

……

同墓苑は、終戦80年事業として募集した懸賞論文（テーマ：「戦没者慰霊のあり方（慰霊の継承）」）の入選者を発表し、優秀賞に澤井園子さん（京都府遺族会青年部員）が選ばれた。澤井さんは同会の語り部活動の中核を担っている。今後益々の活躍を期待したい。

また、令和6年9月にペリリュー島内で確認された日本人戦没者の集団埋葬地（米国資料によれば埋葬者数1086人）等を訪れ、現在進められている遺骨収集作業現場の状況を確認した。

そして、福岡大臣はニライベラス・メトゥール人的資源・文化・観光・開発大臣と会談し、戦後80年が経過するなか、令和8年度以降さらにペリリュー島の集団埋葬地における遺骨収集を加速させるために必要な協力をパラオ側に要請した。これに対し、メトゥール大臣からは、パラオ政府として最大限の協力を行っていく旨の発言があった。

厚生労働省は、今回の閣僚会談での合意を踏まえ、パラオ政府と緊密に連携し、ペリリュー島で確認された集団埋葬地の遺骨収容作業を、概ね令和8年度までに概了させるための取組みを具体化し、実行していくとしている。

日本遺族会新役員

新役員は次の通り。

（敬称略）

会　長　水落　敏栄
副会長　國政　隆昭
同　安齋　満
名誉顧問　尾辻　秀久
顧　問　宇田川毅雄
同　市來健之助
相談役　羽毛田信吾
同　畔上　和男
常務理事　甘竹勝郎、江田肇、今田勇雄、大石庫県】北浦基広【島根県】石原道夫【広島県】篠原彌之【香川県】三谷等【愛媛県】関谷勝嗣【福岡県】倉田賢次【大分県】末光秀夫【熊本県】横田輝雄【鹿児島県】浜崎和則

評議員

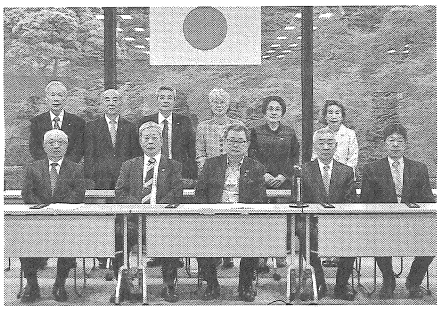
【青森県】齋藤文昭【秋田県】阿部勇【福島県】大場盛子【東京都】武藤孝行【千葉県】川島義美【茨城県】滝一司【群馬県】青木忠昭【山梨県】中村暉雄【新潟県】中山恭夫【石川県】福村穣【愛知県】鵜野豊明【三重県】伊藤早苗【奈良県】松尾敏一【京都府】吉里年和【兵

監事

【山梨県】藤巻進【鹿児島県】永山勇人

理事

【本部】水落敏栄、安齋満、今田勇雄、田中玉喜【北海道】中村公二【岩手県】甘竹勝郎【宮城県】本浩吉【埼玉県】江田肇【静岡県】大石功【栃木県】木村好文【長野県】相澤洋男【富山県】田林修一【福井県】宮内欣也【岐阜県】浅野裕司【滋賀県】松浦友一【和歌山県】林康雄【大阪府】野間征子【鳥取県】國政隆昭【岡山県】三毛禎浩【山口県】岩村誠【徳島県】坂千代克彦【高知県】大石綾子【佐賀県】西田富子【長崎県】山下裕子【宮崎県】高橋義雄【山形県】冨澤川越禎子【沖縄県】我部政寿

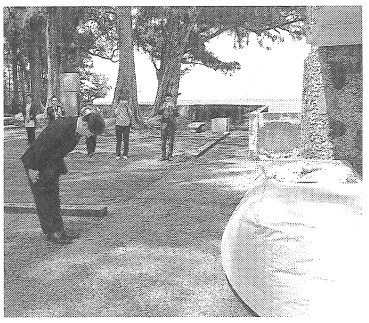


新たに決まった本会役員（正・副会長、常務理事、監事、顧問、相談役）＝5月30日、九段会館テラスで

福岡厚労大臣がパラオへ

戦没者を慰霊、遺骨収集を加速

福岡資麿厚生労働大臣は、5月4日から6日までパラオ共和国を訪問し、先の大戦で激戦地となったペリリュー島に日本政府が建立した「西太平洋戦没者の碑」前で拝礼する福岡厚生労働大臣＝5月5日、ペリリュー島で



「西太平洋戦没者の碑」前で拝礼する福岡厚生労働大臣＝5月5日、ペリリュー島で

要望事項の大綱

1. 公務扶助料等の改善
2. 戦没者遺族に対する特別弔慰金支給法の改善
3. 「平和の語り部」事業の拡充強化
4. 政府戦跡慰霊巡拝の受託
5. 国内民間建立戦没者慰霊碑の永続的な維持管理等への支援
6. 海外慰霊碑の維持管理及び移設事業の推進
7. 戦没者の遺骨収集事業の拡充強化
8. 全国戦没者追悼式への国費参列者の増員等
9. 海外等に散逸する戦没者遺品の返還等の推進
10. 昭和館事業の推進

会議事決定
理書面

令和6年度決算等を承認

令和8年度要望事項を決議

日本遺族会は、5月7日開催の常務理事会で第33回理事会に付議する事項について審議し、また同日の監事会で令和6年度の計算書類等の監査を受け承認されたことに伴い、第33回理事会議案を書面により諮った。

議案は5月7日に各理事宛に発送され、①令和6年度事業報告及び計算書類等について、②令和6年度公益目的支出計画実施報告書について、③令和7年度本会諮会計予算の第二次補正について、④「戦後80年に向けた組織継承3カ年計画」の経過並びに今後の進め方について、⑤英霊顕彰運動の経過並びに今後の運動方法について、⑥処遇改善運動の経過並びに今後の運動方法について、⑦令和8年度政府予算に要望すべき事項のとりまとめについて、⑧日本遺族会支部事務局職員共済会の解散について、⑨評議員会の招集について、以上9つの決議事項が諮られ、5月15日付、書面での決議は承認された。

決議された令和8年度政府予算に要望すべき事項には、10の要望事項（別掲）が掲げられている。

本会は6月30日に全国戦没者遺族代表者会議を開催し、本会の主たる事業である「平和の語り部」事業のさらなる拡充強化を中心に、関連する要望事項が、8月末に財務省によって取りまとめられる概算要求に反映されるよう、関係省庁、地元選出自由民主党国会議員等に対し陳情する。

本会事業参加者の皆様へ

本会の事業に参加するに当たり、得た個人情報は「個人情報保護法」の定めに則り、厳重に扱います。日本遺族会の個人情報保護方針につきましてはホームページを参照されるか、本会にお問い合わせください。

平和の語り部
定期講話会

初の体験型イベント開催

千鳥ヶ淵戦没者墓苑で

戦争体験者の遺族と戦後生まれの青年部が共に記憶の伝承に取組む遺族会の平和の語り部事業の普及、拡大を図るため、全国で講話会を開催している。本部主催第三回目定期講話会は千鳥ヶ淵戦没者墓苑で初の体験型イベントを開催。首都圏をはじめ、遠方からも遺族が駆け付け、幅広い世代が体験を通して記憶の継承を考えた模様を紹介する。



六角堂の柱を丁寧に清掃する参加者
＝5月11日、千鳥ヶ淵戦没者墓苑で

遺族会の語り部は、講話型、対話型、体験型の多様な形態を用いて、戦争の記憶を伝承し、戦争と平和を考える機会に寄与するところが特色である。そこで、本部は5月11日、千鳥ヶ淵戦没者墓苑で初の体験型イベントを実施した。来場者は65人にのぼり、一都三県に加え、京都からも駆けつけ、千代田区内の二松学舎大学より学生2人、区内関係者1人の参加を得た。報道も1社来場した。

同墓苑は、昭和27年頃から政府による遺骨収集が開始されるも、氏名不詳のため引き取り手のない御遺骨をどうするかが大きな問題となり、昭和28年12月、国で埋葬すると平和を考える機会に寄与するところが特色である。そこで、本部は5月11日、千鳥ヶ淵戦没者墓苑で初の体験型イベントを実施した。来場者は65人にのぼり、一都三県に加え、京都からも駆けつけ、千代田区内の二松学舎大学より学生2人、区内関係者1人の参加を得た。報道も1社来場した。

同墓苑は、昭和27年頃から政府による遺骨収集が開始されるも、氏名不詳のため引き取り手のない御遺骨をどうするかが大きな問題となり、昭和28年12月、国で埋葬すると平和を考える機会に寄与するところが特色である。そこで、本部は5月11日、千鳥ヶ淵戦没者墓苑で初の体験型イベントを実施した。来場者は65人にのぼり、一都三県に加え、京都からも駆けつけ、千代田区内の二松学舎大学より学生2人、区内関係者1人の参加を得た。報道も1社来場した。

同墓苑は、昭和27年頃から政府による遺骨収集が開始されるも、氏名不詳のため引き取り手のない御遺骨をどうするかが大きな問題となり、昭和28年12月、国で埋葬すると平和を考える機会に寄与するところが特色である。そこで、本部は5月11日、千鳥ヶ淵戦没者墓苑で初の体験型イベントを実施した。来場者は65人にのぼり、一都三県に加え、京都からも駆けつけ、千代田区内の二松学舎大学より学生2人、区内関係者1人の参加を得た。報道も1社来場した。

同墓苑は、昭和27年頃から政府による遺骨収集が開始されるも、氏名不詳のため引き取り手のない御遺骨をどうするかが大きな問題となり、昭和28年12月、国で埋葬することが決定されたが、建設用地の問題等に紆余曲折があって、昭和31年11月、千鳥ヶ淵の側にあった宮内庁管理用地を使用して、建設されることになった。

そして、昭和33年7月着工、昭和34年3月28日に竣工した。

当日は、通例の会議室ではなく、終日屋外で実施され、千鳥ヶ淵戦没者墓苑前屋において開会式を挙行。初めに水落敏栄本会会長が千鳥ヶ淵戦没者墓苑竣工によせた遺骨収集にかける遺族の思いを拝礼式や遺骨収集推進法施行までの経過を加え説明し、墓苑奉仕会の活動に敬意を表した。

本部より語り部事業の説明の後、榊枝宗男同墓苑奉仕会理事長（当時）が、地域別戦没者遺骨収容概見図の説明版の前からスタートし苑内を廻り、昭和天皇陛下から下賜された御製、終戦60周年に上皇陛下から下賜された御製、六角堂（納骨堂）、平成22年8月に建立された引揚及びソ連の強制抑留によって犠牲となった方々の慰霊と平和を祈念する2基の碑の由来等を紹介し、参加者は歩きながら聴講した。中でも同地に建立されたのは、「靖国神社に近いこと」、「皇居北の丸の緑豊かな土地」、「水の豊富な土地（戦没者の乾いた喉を潤す）」という3つの理由であることを聞いた参加者は感銘を深めていた。

そして、休憩をはさんで清掃作業に入った。当日は他団体の清掃も実施されており、墓苑奉仕会と協議のうえ、六角堂の柱の拭き掃除を担当することとなった。参加者は思い思いに柱を拭きその後、一人ずつ献花し、「里の秋」を献歌した。本部が「童謡から考える戦争と平和」と題して、「里の秋」はボルネオに出征した父の無事を祈り、いろりばたで帰国を待ちわびる親子の情景であり、昭和20年12月頃南方より引き上げてくる方々を歓迎する歌と紹介すると、涙ぐむ参加者も見られた。

最後に参加者に感想を聞いたところ、初回から参加している大学生からは、「定期講話会を聞いてその場に足を運び学びが深まった」「墓苑には よく来ていたが、この地が選ばれた理由を初めて聞いて腑に落ちた。また参加したい」との感想があった。また、青年部世代からは、「設立経緯が聞けたことは貴重な体験だった」「体験者の記憶を繋ぐことは難しいが、努力したい」といった意見があり、戦没者の遺児は「体験者として次世代に語り継ぐことに努力したい」と語った。

イベント終了後に集計したアンケートにも、墓苑設立経緯、趣旨を聞けたことへの感謝が綴られており、もっと清掃体験したかったとの意見も聞かれたため、墓苑奉仕会の快諾により実現した今回のイベントを参考にして、本部は次なる体験型を検討する。

7、8月は親子で取組む自分史・家族史作成、座談会を企画中。家族での参加を期待している。

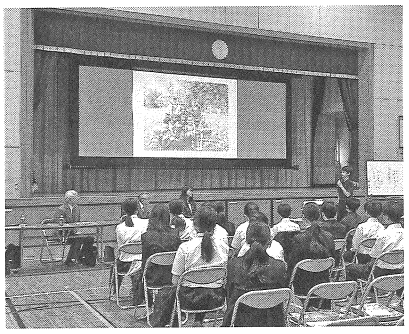
問合せ先：日本遺族会広報室（03―3261―5521）



平和の語り部講話会初の体験型イベントに集まった参加者たち
＝5月11日、千鳥ヶ淵戦没者墓苑で

語り部出張授業を実施

文京区立第八中学校で



富田・武藤両副会長に質問する文京区立第八中学校の生徒＝5月10日、東京都で

5月10日、東京都文京区立第八中学校において、語り部出張授業（道徳特別授業・学校公開）が行われた。きっかけは、一昨年、東京都と都連が戦後80年の節目の年に向け「平和の語り部」活動を進めるため、校長会で紹介したことによる。

東京都遺族連合会は、先の大戦における16万余の東京都関係「戦没者の慰霊」と「都民の平和への願い」をこめ建立された東京都戦没者霊苑内に所在する。苑内遺品展示室には、戦没者からの手紙、千人針、鉄兜、遺骨収集による遺品等を展示し、あわせて戦没者の妻、兄弟、子の証言が視聴できるビデオ放映もあり、近隣の中央大学等や読売新聞社の新入社員研修等、国内、海外からも見学者が訪れている。

従来、八王子市など、語り部活動を実施していたが、東京都と連携して、文京区等の学校での語り部活動が拡がっている。

また、日本遺族会が窓口となっている「語り部事業」により、更に申し込みが増えている。

今回聴講したのは、第八中学校2年生2クラスとその保護者。講師は、富田喜代志都連副会長と武藤孝行副会長、各15分、戦中戦後の写真を活用し、富田氏は、八王子空襲により被災した家族話を、武藤氏は遺骨収集事業の取組みを中心に講話した。

講話後、生徒から多くの質問があり、一番辛かったことを問われ、富田氏は「父の不在。母の頑張る姿を思うと今でも涙がこみ上げる」。戦争をなくすためにはどうしたら良いかを問われた武藤氏は、「他者の意見に耳を傾け理解する努力を続けること」とし、マッチ箱を例に、物事は一面だけでなく多面的に見て、お互いに主張があっても相手に寄り添うことがひいては平和につながると答えた。最後に、富田氏は日本人として忘れてはならない4つの日（6月23日沖縄慰霊の日、8月6日広島、9日長崎の原爆投下の日、8月15日終戦の日）を挙げ、平和を願い覚えてほしいと語った。

当日は、東京都生活福祉部企画課援護担当、語り部者となる都遺族連合会十数名も聴講し、東京都と連携し、多くの地域で、同様の取組みを重ねたいと意気込みを語った。

令和7年度　参加者募集

遺児慰霊友好親善事業

日本遺族会が厚生労働省から補助を受けて実施している本年度最後となる「戦没者遺児による慰霊友好親善事業」では、参加者を募集する。

なお、戦争の悲惨さ、平和の尊さを語り継ぐことを目的に、青年部育成の一環として、付添者で戦没者の孫、ひ孫、甥姪は国より3分の1の補助が受けられるため、一人でも多くの遺児に青年部と共に参加願いたい。

▼**時期及び地域**　令和7年11月予定・フィリピン（1次）、令和8年3月予定・フィリピン（2次）

※フィリピン地域への募集人員が少数の場合は、代替え地域を検討する。

▼**参加費**　10万円。

※東京等の集合場所まで及び帰国時の解散場所からの交通機関は自身の手配となり、国内移動に係る国内交通費等や渡航手続き手数料等の費用は個人負担となる。

▼**参加資格**　戦没者の遺児。（周辺公海上を含む実施地域で父等を亡くした方に限る）

▼**問合せ先**　在住する各都道府県遺族会事務局へ

文科省が事業を周知

全国の学校教育で活用へ

平和の語り部

本会の「平和の語り部事業」が厚生労働省の令和7年度補助事業として採択されたことを受け、水落敏栄会長は4月11日、あべ俊子文部科学大臣、福岡資麿厚生労働大臣と面会し、特に学校教育での語り部の利用を拡大するために事業の周知を再度依頼した。

5月16日、厚労省の要請により文部科学省から各都道府県教育委員会、私立学校等へ、戦争体験を次世代に語り継ぐ「平和の語り部事業」への協力依頼が通達された。

これにより、本事業を積極的に活用する学校が全国的に増えることが予想され、本部・支部一体となって対応し、事業を推進していく。

日本遺族会への賛助金のお礼

本会の活動に賛同し、賛助金を寄せていただいた左記の方々に対し、心よりお礼申しあげます。

賛同者名

山本泰生、吉田博美、川島茂夫、三浦丈夫、澁谷智恵子、大島悟、上岡芳子（以上、5月1日から5月末日まで）

賛助金は、本会が実施しているさまざまな遺族会活動に利用させていただいています。

戦没者遺骨収集事業

自民党特命委員会を開催

遺族の心情第一に拡充強化要望

戦没者遺骨帰還に関する特命委員会（委員長・金子恭之衆議院議員）が5月14日、自由民主党本部で開かれた。厚生労働省から戦没者の遺骨収集に関する取り組みについて説明があり、日本遺族会を代表して出席した水落敏栄会長が、遺族の心情を第一に、早期の遺骨送還に向けて事業の拡充強化を要望した。

平成28年に施行された「戦没者の遺骨収集の推進に関する法律（以下、遺骨収集推進法）」で定められた集中期間の終了は、令和6年度から11年度まで5年間延長されている。平成25年に自民党政務調査会内に設置された戦没者遺骨帰還に関する特命委員会（以下、特命委員会）では、水落会長（当時参議院議員）が委員長を務め、遺骨の早期送還を促進する議員立法を作り、3年がかりで、遺骨収集を国の責務とする遺骨収集推進法が施行された。

14日に開催された特命委員会は、佐藤正久（参議院議員）同委員会事務局長の進行で始まり、岡本利久厚生労働省大臣官房審議官が、令和11年度までの集中実施期間内に約3300か所の埋葬地等の情報について遺骨の有無の確認に関する現地調査の実施、戦没者遺骨の身元特定のためのDNA鑑定に関する広報、DNA鑑定の体制・分析技術及び効率化に係る取組などを説明した。

次に水落会長は、戦後80年を迎えるにあたり、遺骨収集は戦後処理の最大の課題であり、遺族の心情を第一に、一日も早く一柱でも多くの遺骨を祖国に迎えられるよう、戦没者遺族の代表として、事業の拡充強化を強く要望した。そして、自身も過去30数回にわたり遺骨収集派遣に参加した経験を踏まえ、時間の経過とともに遺骨の収容が困難になっている中で、「事業を実施する旧戦域国の政府、行政機関、現地の方々の協力を得て、初めて成り立つものであり、相手側の信頼を損ねることのないよう、慎重に実施してもらいたい」と述べた。

出席した議員からは、さまざまな意見、質問等があった。

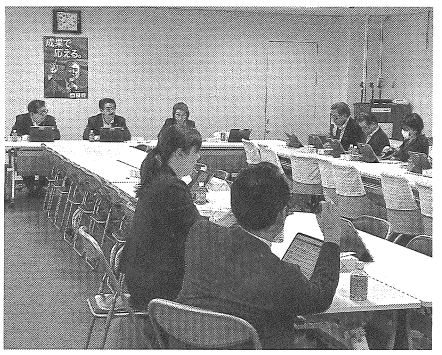
青山繁晴参議院議員は、米軍が硫黄島から戦死した遺体を、日米両国の兵士が混在した状態で持ち帰り、ハワイのパンチボール国立太平洋記念墓地に埋葬し、その遺骨を収容して安定同位体分析を用いて分析すれば、大量の日本兵の遺骨が見つかる可能性が高いという米国国防省捕虜・行方不明者調査局（DPAA）からの情報を公表するとともに、硫黄島の滑走路下にあるとされる集団埋葬地の収容と合わせて、早急に対応するよう関係省庁に求めた。

小野田紀美参議院議員は、戦没者遺骨の身元特定のためのDNA鑑定の実施について、一人でも多くの遺族の登録を促進するよう広報等による周知徹底を要望した。

また、國場幸之助衆議院議員からは、遺骨収集の推進と同様に、国内の民間建立慰霊碑の管理についてもしっかりと対応してもらいたいとの意見があった。これに対し水落会長は、全国に約1万6千基ある慰霊碑を将来的にどう管理していくのかは、戦後処理問題として大きな課題であると答えた。

本会は本年度から民間建立慰霊碑等調査事業を厚生労働省から委託されており、慰霊碑の維持管理状況等の実態を把握するための調査を実施する。

詳細についての問い合わせは昭和館（電話03―3222―2580）まで。



遺族の心情を第一に事業の拡充強化を要望する水落会長＝5月14日、自由民主会館で

厚生労働省

作文コンクールを実施

戦後80年記憶の継承

厚生労働省は、戦後80年を迎え、戦争体験者が少なくなる中、若年世代が先の大戦について知り、現在そして未来に生かすことを深く考える機会を設けることを目的として「戦後80年記憶の継承作文コンクール」を実施している。

作文は、国又は地方自治体が運営する先の大戦に関連した資料館（昭和館、しょうけい館、平和祈念展示資料館）等への訪問、先の大戦に係る「語り部」の講話や証言映像、関連映像の視聴等を通して、平和な国際社会を実現し、戦争の惨禍を二度と繰り返さないために考えたことを書くこととしている。

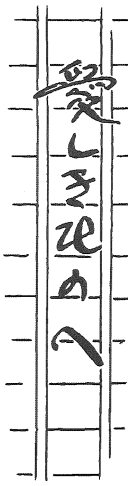
応募期間は令和7年5月8日～9月30日、応募資格は日本国内に居住する令和7年4月1日時点で15歳以上29歳以下の方。



遺書

陸軍軍曹　長田　義夫

昭和十九年七月十八日
マリアナ群島サイパン島にて戦死
宮城県名取郡岩沼町出身　二十一歳



此ノ世ニ生ヲ稟ケテヨリ二十一歳ノ今日ニ至ル迄、大層御世話様ニナリマシタ。

小学校ヲ卒業シテヨリ実社会ニ出マシタガ、両親兄弟程仲良ク而モ親切ニシテ呉レル人ハ居リマセンデシタ。

二年有余ヶ月ノ学校教育モ終ヘテ、今第一線ニ向ヒマス。義夫トシテハ本懐ノ至リデアリマス。特ニ今回ノ卒業ハ陸軍大臣賞ヲ頂戴シ、此ノ絶頂ニ達シタルトキニ生ヲ終ルコトガ、又何カ意義アルカノ如クニ思ハレマス。（中略）

今日此ノ日ガ最期ナルコトハ、日ヲ見ルヨリ明カデアリマス。遺骨ノ帰ラザルハ勿論ナレド、遺品スラ帰ルコトハ望マレナイコトヲ良ク〳〵覚悟シテキテ下サイ。（中略）

喜ンデ護國ノ神トナッテ行キマス。御両親様始メ兄弟ノ皆モ此ノ大戦争ニ勝ツ様、一意奮闘シテ銃後ノ護リヲ固メラレンコトヲ祈ツテ居リマス。

昭和十九年三月十七日書

長田義夫

【令和七年六月靖国神社社頭掲示】
愛しきものへ

九段短歌

作品をお寄せください。

選者　村田　信昌

八十年の時が止まりし地を踏めばしかと聴こゆる非戦の叫び
千葉県　石橋　嘉子

戦没の兄の日記は母の遺品終活の今我九十路
埼玉県　田部井竹子

戦没の軍服の父若きまま八十路となりてなおも愛しい
大分県　安藤　幸枝

未だ帰還叶はぬ戦友偲ぶゆゑ「シベリア朝顔」と名付けて広めむ
青森県　田中　恭子

八十路過ぎもう登れない九段坂父のみたまに献灯託す
新潟県　島田　丈子

故郷の桜見せむと遺骨抱き二度巡りくる埋骨近き日
栃木県　西村三千代

別れとは知らず父に旗振りし昭和十二年夏の駅頭
佐賀県　松尾美津子

わが妻も戦死の父の浄土にて初対面なせしか一周忌来る
佐賀県　松尾　和義

◇

新緑に包まれた五月も終わり、六月になりました。「水無月」です。入梅の時期で雨の降りやすいにも関わらず、「水が無い」と表すのは不思議ですが、実は水無月の「無」は「の」にあたる連体助詞「な」であるため、逆に「水の月」という意味になるのですね。旧暦の六月は今まで水の無かった田んぼに水を注ぎ入れる頃であることから、「水張月」とも呼ばれております。この時期の雨は、稲が実を結ぶ為に重要なのです。昨今、お米の価格高騰が続いておりますが、季節が穏やかに巡り豊作の秋を迎えられることを願わずにはおられません。

（選者）

地方だより

各支部遺族会で施された大会等は次の通り。

▼栃木県　3月2日　栃木県遺族連合会女性部・青年部「語り部」研修会（160人）
▼新潟県　3月6日～7日　市町村地区遺族会長・事務担当者研修会（42人）
▼滋賀県　3月28日～30日　第21回次世代戦跡訪問研修（48人）
▼徳島県　3月8日　第98回語り部事業（60人）
▼愛媛県　3月10日　令和6年度愛媛県戦没者遺族大会（500人）
▼大分県　3月27日～28日　令和6年度市町村・地区遺族会役員合同会議（150人）
▼沖縄県　4月5日　令和7年度研修会（85人）
▼徳島県　4月29日　令和7年度徳島県遺族会「平和の語り部」研修会・役員等研修会（250人）
▼徳島県　5月10日　第99回語り部事業（50名）

日本遺族会への賛助金のお願い

日本遺族会では、戦没者の英霊顕彰や遺族援護、慰霊友好親善事業、遺骨収集帰還等各種事業の活動のために賛助金を募っております。

本会の活動の趣旨にご理解を賜り何卒ご賛同いただきますようお願い申しあげます。

●郵便振替　00130-2-694929
●みずほ銀行　九段支店　普通預金　0980930

※口座名は、一般財団法人日本遺族会（ニホンイゾクカイ）